

# ひるば

敷居の低い 癒しの場としての病院を目指して

発行 地域連携室

〒651-2403

神戸市西区岩岡町西脇838番地

TEL 078-967-1202(代表)

FAX 078-967-3626

URL <http://www.tohokai.jp/>

Email [office@tohokai.jp](mailto:office@tohokai.jp)

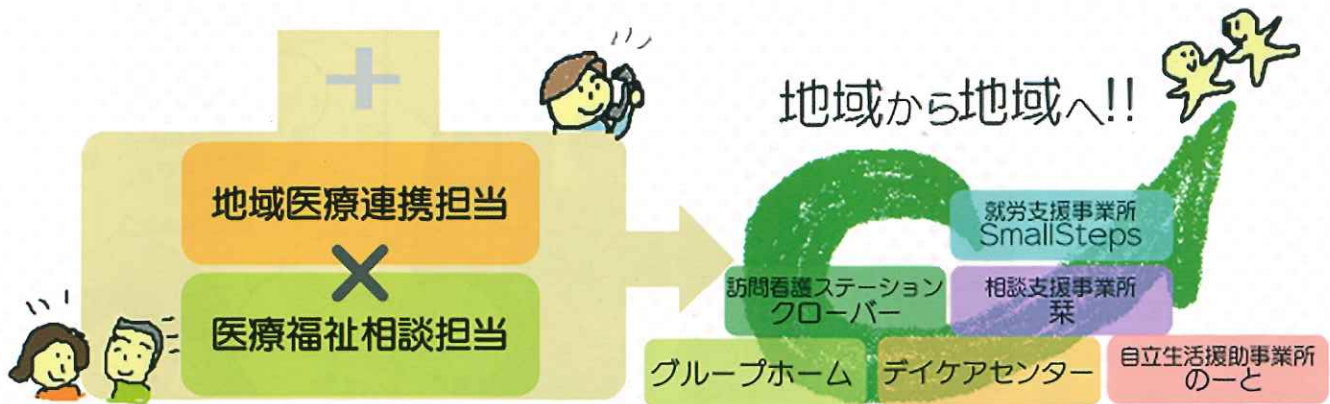
2022年  
7月号  
第162号



## 地域から地域へ～よりよい生活のために～

### 地域連携室 病院と地域をつなぐ架け橋

きめ細やかな支援を行うために地域連携室の機能を二つに分けました



#### <地域医療連携担当>

医療機関、行政、施設の方々との密な連携を行いながら、受診や入院のご相談を専用ダイヤルでお受けします。スムーズかつスピーディな対応を心がけます

#### <医療福祉相談担当>

患者さんやご家族の生活上の困りごと(退院後の生活のあり方、経済面、住まい、日中活動先など)について共に考えます。利用できる様々なサービスや制度の情報提供も行います

皆様の「今困っていること」に寄り添えるよう、行政や福祉施設、かかりつけのクリニックと協働していきたいと思っています。患者さん、利用者さん、ご家族に寄り添いながら、医療やリハビリを提供致します。地域の一社会資源として東峰会を活用して下さい。

(地域医療連携担当課長：北代彩)

患者さんや利用者さんという前に、まず人としてのその人の傍らにしっかり立てるような関わりを大切にしていきたいです。私たち病院のスタッフは本当に困った時、苦しい時の出会いになることが多いですが、お一人お一人に「東峰会に出会えてよかった」と感じていただけるようでありたいと思います。身近で気軽な相談相手として、地域連携室をぜひご利用下さい。

(医療福祉相談担当課長：谷村敦史)



※撮影時のみマスクを外しています。

東峰会では医療の提供と地域生活を支える支援を行います



## 葉 福祉サービスを駆使して、その人らしい暮らしを支える力強いパートナー

相談支援事業所葉は関西青少年サナトリウムと同法人の相談支援事業所です。相談支援とは、障害をお持ちの方が「自分一人では解決できない」「誰に相談すればわからない」といった悩みなどの相談にのって一緒に考えていくサービスです。ヘルパー、グループホーム、就労継続支援などの障害福祉サービスを利用する際にぜひ相談支援事業所葉<sup>しおり</sup>をご検討下さい。

葉の強みは、医療との連携がスムーズなところです。入院中からご本人や担当スタッフと密に連携しており、よりご本人が地域で生活しやすいよう細やかな支援が可能です。

もちろん、関西青少年サナトリウム以外に入院・通院中の方でも、同様に細やかな支援を行いますので、ご利用を検討される場合は各市区町村の障害窓口にご相談ください。

※計画相談のサービスをご利用される場合は、他の障害福祉サービスを利用する必要があります。

利用者さんの支援で迷った時、相談員とも話し合いをして前に進むことが出来ました。



ヘルパーさんを利用する時、どの事業所を選んだらいいかわからなかったのですが、紹介してもらってよかったです。

担当の相談員に、生活の困りごとが身近に相談できるので安心です。



毎週スタッフが訪問してくれて、書類の確認を一緒にしてもらえるので助かっています。

ゆくゆくは自分で行けるようになるために、今は銀行と一緒に行ってもらってお金をおろす練習をしています。

## のーと 暮らしの変化を支える身近なサポーター

のーとは、「自立生活援助」というサービスを行う事業所です。自立生活援助とは、グループホーム、障害者支援施設、精神科病院等から退所・退院し、一人暮らしを始めた方が地域で安心して暮らし続けるためのサービスです。ご本人の意思を尊重しながら、地域生活を送る上での困りごとの相談にのり、ご自身で課題を解決していく力をつけられるように支援しています。



訪問

同行  
支援

電話  
相談



# 家族プログラムのご案内

ご家族が元気になる支援を目指して

心の病はご本人だけでなく家族もつらいものです。家族が元気になることは患者さんの回復にも良い影響を及ぼすと言われています。関西青少年サナトリウムでは家族への支援も大切であると考え、毎年、医師・看護師・作業療法士・精神保健福祉士など多職種で運営する家族プログラムのご案内をしてきました。

新型コロナウイルスの影響で 2020 年度からはそれまで行っていた「家族教室」「ご家族のための元気になるプログラム」を中止にしたり回数を減らしたり、オンラインや電話でのプログラムに切り替えました。

コロナで集まりにくい今だからこそ！

関西青少年サナトリウムは「家族プログラム」を必要としているたくさんの方に届けます。

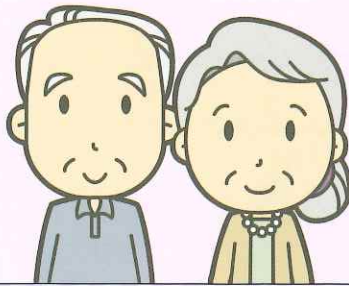
## ～ 2022 年度の家族プログラムのご案内～

① ご家族のための元気になるプログラム 全 6 回シリーズ オンライン開催 秋以降

② オンラインセミナー(参加費無料・参加自由) 10 月開催予定

ご家族の元気につながる情報をより多くの方に知っていただく機会にしたいです。

とても分かりやすく、  
普段教えてもらえないような  
お話も聞けました  
理解が深まったので  
今後の行動に活かします



他のご家族のお話が  
聞けて良かったです  
とても癒されました

健康一口メモ  
コラム

## 「夏バテ」について

精神科のお医者さんに  
聞きました

鬱陶しい梅雨が明けると、いよいよ夏本番ですね。暑さのため心身に変調をきたしやすい時期ですので、旅行や帰省を計画されている方も、体調管理には気をつけたいところです。

そこで、今日は「夏バテ」についての話題です。夏バテ防止と言えば思いつくのは鰻でしょう。今年の土用の丑の日は 7 月 23 日と 8 月 4 日です。それで少し調べてみました。

古来、日本には季節の変わり目である土用の丑の日に「瓜」(キュウリ/スイカなど)や「梅干し」など「ウ」から始まる食べ物を食べ、無病息災を祈る風習があったようです。「鰻」は元々冬が旬の魚で夏にはあまり食べられませんでした。一説によると、夏場さっぱり売れず困っていた鰻屋に頼まれた、かの有名な平賀源内の発案で、店先に「本日土用の丑の日」という看板を出したところ、たちまち評判となり、やがて全国に広まっていったとか。

「瓜」は水分が多く利尿作用があり、「梅干し」は汗で失われたミネラルを補うことができます。また「鰻」には疲労回復に効果のあるビタミン B1 が豊富に含まれています。私たちの祖先は科学的な知識はなくとも、経験的にこれらの食物が「夏バテ」防止に効果があることを知っていたのでしょうか。

土用の丑の日には「ウ」から始まる食べ物で、「夏バテ」を防止しましょう。

医局長兼地域連携担当部長

佐伯 龍

私自身は特別な夏バテ対策はしていません。  
鰻が好物なので、季節を問わず食べています。





## お医者さんを紹介します



はしもと たかし  
**橋本 隆志 先生**

出身：兵庫県  
趣味：スポーツ観戦



仕事をしていてどんなところに  
やりがいを感じますか？

多職種で連携していてチーム医療が意識できる点です。治療をチームで行い、患者さんが回復する姿をみると、とても嬉しく感じます。

今後していきたいことは？

患者さんとたくさん関わりたいと思います。また、当院は救急も積極的に行っているので、急性期など色々経験したいです。

みなさんに一言どうぞ

至らない点もあると思いますが、精一杯頑張りますのでよろしくお願いいたします。

## 外来担当医のご案内

**外来再診担当医** 受付時間 8:50 ~ 15:00

診察時間	月	火	水	木	金	土
午前診 9:15~12:00	狩場 9:40~	鬼頭	内藤	瀬川	佐伯	当番医
午後診 13:00~16:50	朴	西村	岡本	瀬川14:00~15:00 高尾	頼 赤堀	—

**初診外来・入院 担当医** 曜日別に下記の常勤医師を中心に、  
上記の外来再診担当医以外の医師が診察します（順不同）

月	火	水	木	金	土
佐伯	内藤	頼	佐伯	朴	当番医①
岡本	吉田	朴	狩場	岡本	当番医②
赤堀	赤堀	狩場	吉田	石橋	当番医③
高尾	石橋	橋本	石橋	橋本	

## 専門外来担当医のご案内

☆ < 児童思春期外来 > 毎週月曜午後 **完全予約制** (担当：内藤医師)

☆ < 発達障害専門外来 > 第3金曜午後（月1回） **完全予約制** (担当：上月医師)

### 編集後記

5月から広報誌「ひろば」の委員に加わり、初めて編集に参加しました。みんなでアイデアを出し合い、一つ一つの記事が形になり、広報誌が出来上がっていく過程を体験し、嬉しさがこみ上げてきました。一人でも多くの皆さんのお手元に届くことを願っています！

(地域連携室：北代 彩)